

令和6年度 立川市立立川第六中学校 学力調査等の分析〔各教科〕

教科	教科の現状と課題 <全国学力学習状況調査や定期考査等からの分析>
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査の結果から各学年9割弱の生徒が「授業が分かる」と回答している。「よく分かる」と回答した生徒は、都・全国平均ともに10ポイントほど上回った。しかし、「国語は大切だと思うか」については、平均を下回っている。意義を感じながら学習させる必要性があるといえる。 ○字の反復練習をしているのは全校で8割にも満たない。学年が下がるほど、反復学習の習慣が身に付いていない傾向にある。特に第3学年に関しては、部首や意味、他の熟語と関連付けて漢字を覚えようとする意識が他学年に比べて低く、課題といえる。 ○話す・聞くの分野では、特に第1学年がメモの習慣が低いことと、他者の文章を読み、よい所を取り入れる意識が低いことが課題である。協働学習においてメモをとらせ、役立たせる必要がある。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年を通して、用語等の知識の定着が見られた。その一方で、文章で説明したり、資料から比較や分析をしたりすることが苦手である生徒が多い。また、「歴史」「地理」「公民」全ての分野において、自分の力で事象を関連付けて問題解決に向かうことも苦手である。思考力等が求められる問題の正答率も低い傾向にある。 ○特に歴史的分野において、理由や背景等を踏まえながら、歴史的事象について深く探究し、文章にまとめることに苦手意識がある傾向にある。時代の流れを捉えながら学習するために、資料等を丹念に読み取り、関連付けをする学習活動を丁寧に行う必要がある。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○第3学年において実施された学力調査では、平均正答率59%と、全国平均の52.5%及び都平均の57%を上回っており、無回答率も都平均より低い。しかし、図形領域の問題の正答率が46.2%と、都平均の46.5%をわずかに下回っており、苦手な内容であることがわかる。 ○全学年を通して、定期考査における「知識・技能」の得点が高い一方で、「思考・判断・表現」に関する得点が低い傾向があった。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査や実力テストの解答の傾向として、基本的な知識は身に付けているが、グラフや表から判断する記述式の設問については、苦手な生徒が多い。グラフや表から必要な情報等を読み解く力を育成する。 ○全学年を通して、知識・技能の理解はあるが、実生活の様々な場面に活用する力や、課題解決のための構想を立てることを苦手とする生徒が多い。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査の正解率が低いのは、全学年とも音符や休符の名前と長さの割合の問題である。繰り返し授業で確認することで音符や休符に対する苦手意識を克服させる必要がある。 ○授業評価の結果から、授業の目標やめあてを理解して授業を受けられていない生徒がいるため、毎時間の授業の目標やめあてをしっかりと提示した上で授業を進め、振り返りを丁寧に行うことで次回への意欲がもてるよう指導していきたい。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○美術科の1学期期末考査の平均達成度は1年60% 2年71% 3年78%であった。 ○授業の作品作りが期限内に間に合わない生徒が多くいたため、見通しをもって作業を進めていく力を身に付ける必要がある。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に思考力・判断力・表現力の定着が十分とは言えないので、自己の課題を分析する活動や自分の考えを他者へ伝える活動について、よりよく取り組めるように指導する必要がある。 ○生徒の授業評価から、評価方法を十分に理解していない生徒が約15%、教員が授業の目標や流れの確認、振り返りを十分に行っていないと回答した生徒が約10%程度いることが分かった。授業の目標・流れの提示や振り返りを丁寧に行うとともに、評価についての理解を深めるために、ルーブリックを用いて評価規準を明確に示すようにする。
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○技術科の1学期期末考査の平均達成度は1学年から3学年全ての学年で55%前後であった。知識の定着が十分とはいえないので、復習の機会を増やし達成度を上昇させたい。 ○家庭科の1学期期末考査の平均達成度は1年66% 2年56% 3年52%であった。家庭科においては、平均して知識の定着が見られるが知識を生活により結び付ける指導の必要がある。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度1学期期末考査で正答率30%未満の生徒の割合が、3年生は8.3%、2年生は17.0%、1年生は20.3%だった。 ○生徒の授業評価から、「授業が楽しい」「授業がわかる」と回答している生徒は、全学年共通して75%を超えているが、英単語や文法などの知識を十分に定着させたり、既習事項を活用して英語で表現したりすることを苦手とする生徒が多い。

令和6年度 立川市立立川第六中学校 学力調査等の分析〔六中全体〕

学力向上推進委員会による六中全体の分析

分析結果

〈教師との関係〉

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という点で、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の合計が、84.9%と全国平均と同等であり、教師が生徒に寄り添いながら授業を行っていることがわかる。

〈各教科〉

「国語が好きな生徒」が全国に比べ1.9%多い65.7%に達していたが、「数学が好きな生徒」は全国に比べ0.7%少ない56.5%であった。また、授業がわかりやすいと感じている生徒は、全国に比べ「国語」は3.1%多い85.8%、「数学」は1.0%多い76.7%であった。

〈家庭の学習状況〉

「平日の学校の授業外に2時間以上勉強に取り組む生徒」は、全国に比べ15.8%上回る47.5%であり、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、2時間以上勉強に取り組む生徒」も8.2%上回る44.4%となった。

以上のことから、学校外での学習環境と、授業の理解等が伴っていたため、平均正答率が全国に比べて「国語」が1.9%高い60.0%、「数学」が8.5%高い59.0%という結果につながったと考えられる。

今後の計画

学習意欲が高いことは本校の生徒の傾向である。各教科の現状と課題においては、ICT機器を効果的に用いることで、課題解決学習への楽しさを様々な教科の中で感じられるようにし、より主体的に学習する力を向上させていく。

さらに、これまで通り、学習内容の基礎・基本を身に付けさせていくことが重要である。そのためにも教師との信頼関係を築きながら、スタディールームや夏季補充教室のように、自主的な学習を補助する機会を継続して設けていく。思考力・判断力・表現力の育成のためには、学習意欲や学習内容の基礎・基本が土台となる。今後も、以上のことに力を入れ指導にあたる。